

芝浦工業大学工学マネジメント研究科客員教授  
谷口博昭

「健寿の駅」という言葉を初めて耳にしたのは、縁あって芝浦工業大学に勤めてすぐの4年半前であった。健康寿命を延伸する「健寿の駅」の社会実験を東京都多摩地区で

な健康測定機器を装着し歩き、日々の歩行数と脈、血圧等の関係を定期的にチェックし、健康相談や診断を受けることが出来る拠点に、この構想が「健寿の駅」で、「道の駅」を活用して推進し

## 「健寿の道」のすすめ

ようとの目論みである。2020年の基礎的財政収支、プライマリーバランス黒字化の財政健全化計画が策定された今日「健寿の駅」の促進が期待される。「コンパクトネットワーク」、交流連携が可能なネットワークのもと交流人口を促進しつつ、交流人口にもたれ過ぎることなく定住人口を確保し、定住する老若男女が安全・安心して歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが求められている。

実施するので、その研究メンバーに入って欲しいとの同大学の岡村宏先生からの要請であった。これからの少子高齢化・人口減少時代、医療、介護等社会保障費の増大が懸念ある。高齢者がウェアラブル75歳で毎日歩ける人は、そうでない人に比べて健康を維持できる確率が高く、終末医療等を含めて医療費の大幅削減につながる、とのデータがある。高齢者がウェアラブル75歳で毎日歩ける人は、基礎的財政収支、プライマリーバランス黒字化の財政健全化計画が策定された今日「健寿の駅」の促進が期待される。「コンパクトネットワーク」、交流連携が可能なネットワークのもと交流人口を促進しつつ、交流人口にもたれ過ぎることなく定住人口を確保し、定住する老若男女が安全・安心して歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが求められている。

現下の最重要課題である「地方創生」の拠点として「道の駅」を活用する際、「医住近接」のまちづくりの視点から「健寿の駅」が検討され、併せてバリアフリーや無電柱化等により「健寿の駅」に至る、安心して歩ける道の整備促進が望まれる。